



# 南極ものがたり

No.17



## ◆ 物資輸送本格化

隊員が昭和基地に入ると同時に、大型ヘリによる物資輸送も始まります。夏期活動中の食料や野外観測活動の物資などです。56次越冬隊員も、生鮮食料品を待ちわびています。1回のフライトで最大2tの輸送が可能です。人員輸送も含め、23日7便、24日12便、25日22便もの輸送が行われました。観測船「しらせ」の一番の任務は、滞りなく物資を輸送し、『越冬成立』を果たすことです。この後「しらせ」は、定着氷域でラミングを繰り返しながら進み、昭和基地への接岸を目指します。接岸後は2月1日の越冬交代に向け、氷上輸送、バルク燃料輸送、空輸が行われます。



待望の初荷到着

2015.12.23.

(左から、三浦56次越冬隊長、門倉57次隊長、大鍋しらせ艦長)

## ◆ JARE57 隊員紹介

友松 岳士 (40) 越冬隊 LAN・インテルサット 愛知県出身  
KDDI 株式会社

私立東海工業高校電子科から名古屋工学院専門学校へ進み電子、無線を専攻する。工事担任者、危険物取扱者、第1級陸上特殊無線技士の資格を持つ。KDDI入社後は、ネットワーク機器の保守を担当する。インテルサットアンテナの建設に伴い、46次隊より毎年KDDIから越冬隊員が1名派遣される。昭和基地では、おもにインテルサットアンテナ及び衛星回線の保守・点検、LANネットワークの管理を担う。高校時代は、自転車で四国や九州、東京など各地を旅した。南極へMTBを持ち込んでおり、大地を駆け巡るのが楽しみ。皆さんへは「興味のあること、好きなことをとことん追求することが大切」とアドバイス。奥様の理解あつての派遣。「元気で帰ります」とメッセージ。



インテルサットアンテナドームにて

南極授業では、SWとして華麗な機器操作。トラブルにも冷静に対処。感謝してもしきれません。

## ◆ 昭和基地散策

昭和基地入り23日の夕食後、19:30頃から昭和基地を散策してみました。太陽高度は低いものの白夜ですので、まるで昼間のようです。まずは、私たちの宿舎「第一夏期隊員宿舎」から、管理棟前の「昭和基地」の看板を目指しました。そうです。南極授業の冒頭の場所(19(イチキュー)広場)です。トラックの轍が残る凸凹の道に長く伸びた影を追いかけるように歩くこと5分。日の丸と「昭和基地」の文字が見えてきました。ここで授業をするのかと思うと身が引き締まる思い。そのあと折り返し、宿舎からパンジーレーダーに向けて歩いてみました。大きな「蜂の巣岩」(氷河後退時に取り残された迷子石が、長年の風食作用で蜂の巣状に穴が空いたもの)に遭遇しました。昭和基地には多くの蜂の巣岩が見られます。そして、耳を澄ますと、驚くなかれ、全く音が聞こえません。無音の世界です。日本から14000km離れたこの無機質な島に、90人余りの人しかいないと考えると、一瞬ゾッとしました。



長くなった足



南極授業は、ここからスタート!



日本から14000km



どのくらいの歳月でここまで...